

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970102915
法人名	有限会社 コクセイ
事業所名	こくせい館
所在地	奈良県奈良市法華寺町1416番1 (電話) 0742-33-6514

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年5月13日	評価確定日	平成21年6月29日

【情報提供票より】(平成 21年 4月 21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 11人, 非常勤 6人, 常勤換算	6.585人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費	500円(1日)
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	550 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(4月 21日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有限会社コクセイが運営する当該ホームは、国道に面していながら多くの自然に囲まれた環境の中に立地しています。理事長が光を浴びて生活できるように一つの家として建築建てられ、ホーム内は明るく、対面キッチンからは料理の匂いが漂ってきます。リビングにはたたみコーナーが設けてあり、テレビを見たり横になったり、利用者と一緒に過ごせる家庭的な雰囲気を大切にされています。職員は、何事も全員でするのではなく、やりたい人、行きたい人、希望に応じて数名でのんびりと外出できるような取り組みや個々に応じたケアができるよう日々取り組んでいます。また、利用者が何かに携わっている事でホームでの暮らしが楽しく生き生きとなるようにその時々場面を大切にしているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題評価について、地域密着としての理念を職員で話し合い作成しました。職員からの意見や問題点を聞き、幹部会議で話し合っています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、数名の職員に聞きながら管理者がまとめました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や法華寺総代、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を6か月に1回開催しています。議案をもとに話し合い、ホームでの様子や行事などの報告も行っていきます。質疑応答の時間も設け、得られた意見や要望等については幹部会議で話し合い、サービスの向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム玄関に意見箱を置いています。来訪時や運営推進会議においても話しやすい雰囲気をづくり意見や要望を聞くようにしています。また意見や要望については、職員間で話し合い家族に報告しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、散歩や買い物に出かけた時には地域の方と挨拶を交わすなど、少しずつ近隣の住民とも関わりが持てるようになりました。ホームでの夏祭りには地域の方に声掛けをして数名の参加がありました。また、隣接する高校の文化祭や自衛隊の行事に見学に行くなど、交流に努めています。大学生のボランティアの来訪や実習の受け入れ先にもなっています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者様個々に合ったケアの提供・活き活きとしたその人らしい生活環境作り・家族様や地域の方が気軽に寄れる家造り」という理念を、こくせい館が目指している内容として職員全員で話し合い作りあげました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示してあり、毎月の会議で読み上げたり、理念に応じたケアが出来ているかなど、常に理念に立ち返りながらサービスを提供しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しています。ホーム主催の夏祭りには、地域住民に呼びかけをし、数名の参加がありました。また、散歩や買い物時に地域の方と挨拶を交わしたり、日曜大工で作ったものを頂くなど地域の方々との交流に努めています。隣接する高校の文化祭や自衛隊の催し物などの見学に行ったり、ボランティアの受け入れもしています。また、今年度は近くの大学生の実習も受け入れる予定です。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、数名の職員に聞きながら意見集約後管理者がまとめました。前回の外部評価の改善項目については会議で話し合い、改善に向けて取り組んでいます。	○	自己評価を職員全員で実施することにより、取り組んできたことの成果を振り返り、事業所の課題や今後の改善計画について、全員で共有できるよう取り組まれることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や法華寺総代、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を6か月に1回、開催しています。議案をもとに話し合い、ホームでの様子や行事予定などを報告しています。また、市の職員に参加してもらえるように案内を出していますが、参加はありません。	○	2か月に1回の運営推進会議の開催が望まれます。また、地域の方にも参加してもらえるような工夫などの検討や今後の参考にもなるように運営推進会議録を残されることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは顔なじみになり、運営推進会議の議事録を届けたり相談事などを行っています。担当者から聞いたことなどはホームに持ち帰り、職員で話し合いサービスの向上に活かしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	立て替え金のレシートや毎月の利用料と共に利用者ごとの暮らしぶりを手紙にして毎月送付しており、家族の来訪時にはこまめに報告をしています。また、ホーム便り「夢橋」を2か月に1回発行し、写真入りで行事の様子やホームでの様子を伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域の中で第三者として評価してくれる人をたて、客観的な意見を聞くようにしています。また、運営推進会議や面会時に意見が出しやすいような雰囲気作りに配慮しており、玄関に意見箱も置かれています。得られた意見、要望については職員で話し合い結果を家族等に報告しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、日々職員とのコミュニケーションを大切にし、常に声掛けをしたり、食事などに出かけ個々の思いを受け止め、勤務体制に配慮したり、職員同士でも協力し合うなど、働きやすい環境作りに努めています。また、新任職員との関係を築くために、その人の経験年数に応じてマンツーマンでサポートしたり、全職員に対しては、理事長や管理者が定期的にヒアリングの機会を設けるなど離職を少なくするための配慮をしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会主催の全国大会や奈良支部主催の研修会等、外部研修に参加していますが、伝達研修については数名の職員に口頭で報告するのみになっています。	○	研修の内容を報告書と資料で残し、伝達研修に全職員参加で出来ない時には、報告書と資料を回覧するなど共有できるような取り組みを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会奈良県支部の中で、5～6施設のグループホームが集まる運営強化委員会が月1回あり、日々のケアについての意見交換や事例検討をするなど交流の場となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には自宅訪問し、家族や利用者から多くの情報を得ています。食事や入浴もできる一日体験や泊まり体験もできホームに馴染めるように家族と相談しながら工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活しながら支援する中で、利用者から教えてもらうことが多くあります。利用者の気持ちを理解しながら何でも言い合える関係を築けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者とのかかわりの中で会話や表情などからも汲み取れるように努めており、状況に応じての行動やサインを見逃さず把握するようにしています。センター方式の一部を使用しながら、家族や利用者からの希望や意向を聞き把握するように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の一部を使用し、利用者や家族の希望・意見などを聞きながら意向に沿った具体的な介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定の期間を介護計画の見直し期間としています。毎月のミーティングで状態の変化がある利用者のみ担当者会議を開き見直しをしていますが、モニタリングがなされていません。	○	見直しまでの期間が長い間を再検討し、利用者の状態に変化がなくてもモニタリングを行い現状に即しているかどうかを確認すると共に、日々の状態の変化も把握できるように介護計画に沿った日々の記録の方法を検討されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で行けない場合の通院介助や買い物、家族のいない利用者の希望で銀行や郵便局の付添いなど利用者一人ひとりに応じた支援をしています。また、家族の希望で以前住んでいた遠方の家に行ったり、2か月に1回、訪問理美容の利用など、利用者や家族の要望に応じて柔軟な支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	3か所の医療機関と提携を結んでおり往診にも来てもらえることや緊急時にも対応してもらえることを契約時に説明をし、希望に沿ったかかりつけ医を決めています。3か所の医療機関それぞれから月に2回の往診があり、かかりつけ医でない利用者も、何かあれば診てもらえるようにしています。また、週に1回、歯科医と歯科衛生士の訪問があり治療や口腔ケアについての指導があります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用前にホームとしての看取り指針を説明し理解してもらっています。「医療行為が必要となれば入院」と説明していますが、その時の状況や状態に合わせかかりつけ医や家族の意見を聞きながらその都度話し合う機会を持ち、内容を職員で共有しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に聞こえるところでは、プライバシーに関する情報交換をしないように心がけています。また、プライドを傷つけるような言葉使いは慎み、常に気を配っています。そのような言葉使いをしたときは、その都度職員同士で注意合っています。記録物は、リビングに置かれています。	○	個人記録は、事務所や鍵の掛かる所に保管し、誰でもが目につかないような置き場所の工夫を期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはありますが、基本は利用者がゆったりとした一日を過ごせるように心がけています。利用者一人ひとりの希望や意思を確認しながら意向に沿った日々を過ごせるように支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が利用者の希望も聞きながら一週間単位で作成しています。週に3回程度、利用者と食材の買い物に出かけたり、座ってでも出来ることに関わってもらいながら一緒に準備をしています。また、食事が楽しみなものとなるよう、料理に合わせて食器を変えるなどの工夫をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっていますが、毎日の入浴や希望があれば夜間の入浴ができるようにしています。利用者の状況や状態に合わせて入浴が楽しみなものとなるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれに役割があり、拭き掃除や食事の準備、洗濯物干し・たたみなどの家事を担当したり、今までしてきた裁縫、書道、手芸などを楽しめるよう支援しています。また、詩吟をしていた利用者が作詞をし職員が作曲してCDにするなどホームでの暮らしが生き生きとしたものになるよう支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物、ドライブに全員で行くのではなく、利用者を数名ずつ分けてのんびりと出かけています。また、季節に応じたお花見や紅葉狩りなど、家族の参加もあり、弁当持参で出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	国道に面した交通量の多い所にホームがあり危険なため 門扉は鍵を閉めていますが、玄関はいつも開いており広い敷地の中を行き来し気分転換を図ることができます。家族には暗証番号を教え自由に来訪ができるよう説明しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、ホーム独自で避難訓練をしています。また、奈良市の避難訓練には職員が参加しています。	○	地域との良好な関係を生かし、運営推進会議等で呼びかけ地域の消防団や近隣の住民に協力を求めたり、消防署にも来てもらい避難訓練を行うなど協力体制が得られるような働きかけが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分量は、毎食記録に残っています。食べれないものについては代替えを提供したり、糖尿病の利用者には食量の調整をしたり、粥やペースト食、トロミ食など利用者の状況に合わせた食事を提供しています。また、管理栄養士に来てもらいアドバイスをもらったり、栄養士の資格を持っている職員に献立を見てもらっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく対面式のキッチンで、料理をしているところが見え匂いも漂ってきます。廊下には利用者の作品が飾ってあり、テレビの前にはゆったりとしたソファが置かれ、たたみコーナーではゆっくりと横になることもでき居心地よく過ごせる工夫がされています。また、空気清浄機を数か所置き、匂いや感染症の対策にも取り組んでいます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたベッドや布団、椅子・テーブル、大切にしていたアルバムや家族の写真、湯呑、おはしなどを家族と相談しながら持ち込んでもらっています。また、全居室は和室になっており、家族がいつでも泊れる様にしています。		